

防災についての心掛けと準備について

「防災士」という名称について、疑問を覚えることがあります。「災害を防ぐ」なんてことが本当にできるのかと。

大地震・風水害など日本では毎年のように大きな災害が発生しています。その原因となっているのは大半が自然現象であって、これは人間の力でくい止めることはできません。しかし、自然現象がそのまま災害を引き起こすわけではありません。災害とは、自然現象などによって人的・物的被害が生じたものを指すのです。従って、自然現象への備えによって被害の発生が防げれば、それでこそ「防災」ということになります。

ただ、自然は偉大なもので人間が簡単に制御できるようなものではありません。そのことから、最近は「減災」(被害をできるだけ減らす)という言葉も使われるようになってきました。いずれにしても、日頃からの備えの有り無しがいざという時に大きな違いとなって現れてきます。

「お宅では何か防災対策をしていますか？」と問われて、「はい、うちでは水も食料も三日分確保しています」と、自信を持っておっしゃる方は数多くいらっしゃいます。確かに、水と食料の備蓄は大切なことですが、これだけでは充分ではありません。というより、防災対策の優先順位からすれば、これは三番目となります。

まず大事なことは「自分が死なない」こと。次が「安全な場所に逃げる」こと。三番目が「救助が来るまで生き延びる」ことになるのです。

次号・次々号と、引続きもう二回紙面をお借りして防災についての心掛けと準備について、私が日頃考えていることをお話しさせていただきますと思います。(注：由井西部地域住民協議会広報紙「かたくり」のよの転載)

二〇一六年四月に発生した熊本地震でも多くの方がお亡くなりになりました。大変痛ましいことで、心よりお悔やみ申し上げます。報道によれば亡くなられた方の約七割が建物や家具に押し潰されての圧死や窒息死のことです。

最も大事な「自分が死なない」ことのためには、地震対策で言えば住宅の耐震化や家具の転倒・移動防止です。土砂災害を想定すれば、崩れる恐れのある斜面に向いた部屋や階下では寝ないということ。一瞬のうちに生命を失うということだけは、何としても避けなければなりません。

次に「安全な場所に逃げる」ためには何が必要でしょうか。地震で室内にガラスの破片が散乱していた時に、裸足やスリッパのままでは大怪我をしてしまいます。寝室にはそのまま外へ出られるスニーカーなどを置いておきましょう。踏抜き防止用の中敷きがあれば万全です。夜間の停電時に避難しなければならぬことに備えて、LEDの懐中電灯も枕元には必須です。

家が潰れないまでも、柱が傾いてしまった場合にはドアが開かなくなる可能性もあります。玄関または勝手口にボールがあると心強いのです。

万一、閉じ込められてしまつて外に出られない時にために、合図のホイッスルも用意しておきましょう。これらが二番目に大事な防災対策です。

また、視点は少し違いますが、自宅から避難場所へ行くまでの経路に、崩壊や浸水などの危険箇所はないか、あらかじめ頭に入れておく必要があります。八王子市で作成している土砂災害ハザードマップ・洪水ハザードマップから、近くに該当箇所があれば自分の目で現地を確認しておきたいものです。

防災対策の三番目が「救助が来るまで生き延びる」ための備蓄品ということになります。以前は水と食料は三日分を備蓄するように言われていましたが、現在の国の指導では一週間分となっています。確かに熊本地震でも救援食糧が届くのに一週間以上かかった避難所もあり、災害の規模によっては三日間の備蓄ではすぐ底をついてしまいます。

しかし災害対策用の保存食だけで一週間分を用意するのは場所も取りますし、保存期限が到来した時に消費するのも大変です。通常の生活の中で、日持ちのするものなど少し多めに買い求め、古いものから使った分だけ買い足してゆくサイクル保存であれば、普段の延長上でできることかと思えます。

なお、想定される災害の中で「強毒性鳥インフルエンザ」の場合には、流行が一息つくまでに三週間かかると言われていますので、その間他人と接触を避け買物に行かず済ませようと思えば、一週間分の備蓄はとも足りません。ただ「鳥インフルエンザ」は急に発生するものではありませんので、流行の兆しが見えてから早めに対策を取れば間に合うのではないのでしょうか。

災害は地震だけではなく、すべての災害を想定して対策をとることは実質的に不可能です。居宅の立地だけでなく、家族の状況(通勤・通学先やその途上での被災)なども考慮が必要です。

どうしたら自分と家族の身を守ることができるのかを、九月一日の「防災の日」に限らず、毎月一日を「家族防災の日」として、家族で連絡方法を確認しあったり対策の内容を点検することにあてて、被害の防止・軽減につなげていただけることを願っています。